

「写楽と江戸の浮世絵師たち展」 作品リスト

平成12年8月15日(火)～9月30日(土)

役 者 絵

歌舞伎役者の舞台姿や日常生活を描いた絵を役者絵といいます。歌舞伎役者の舞台姿を描いたものは、今でいうところの“ブロマイド”。歌舞伎ファンは、この浮世絵師たちがつくった役者絵を熱狂的に収集したといわれています。もともと歌舞伎を描いた絵は、舞台全体を見渡すもの、いわゆる「歌舞伎図」でした。しかし、浮世絵師の手法・意識の向上で、より役者に似た“似顔絵”作品を生み出してからは、この役者絵が歌舞伎を題材にした浮世絵の主流となりました。これは、江戸時代の明和期（1764年～1772年）末あたりのことです。これらの“ブロマイド”は、人物の上半身を描く画面形式のものを「大首絵」、顔だけを描くものを「大顔絵」といいます。舞台上の役者の表情を近くで見たい！という観客には、この「大首絵」や「大顔絵」は、貴重なものだったのでしょう。

作 品 名	制 作 年	作 者	所 属 先
八世森田勘弥の駕籠昇鷲の治郎作	1794年頃	東洲斎写楽（生没年不詳）	個 人
玖入村ノ惣太	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
井筒屋新助	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
花野村の千種と白ぬひ大臣	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
放駒乃長吉と濡髪長五郎	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
お辰の兄三作	1818年～1825年頃	歌川国芳（寛政9年～文久元年・1797年～1861年）	個 人
小糸と瓢箪丸綱五郎	1818年～1825年頃	歌川国芳（寛政9年～文久元年・1797年～1861年）	個 人
勘平女房おかと寺岡平右衛門	制作年不明	歌川国貞（天明6年～元治元年・1786年～1864年）	個 人
かるた	制作年不明	豊原国周（天保6年～明治33年・1835年～1900年）	個 人
雪	制作年不明	豊原国周（天保6年～明治33年・1835年～1900年）	個 人
鬼若丸と在口姫おまつ	制作年不明	歌川国安（生没年不詳）	個 人
勧進帳	1867年～1907年頃	楊洲周延（天保9年～大正元年・1838年～1912年）	個 人

美 人 画

女性の容貌の美しさを表現し、その時代の“美しさ”の流行をあらわしたものを美人画といいます。美しい女性を描く「美人画」は、室町時代末期にも存在しており、浮世絵が誕生する以前から描かれていました。江戸時代に入り浮世絵版画が生まれて同じ図柄の絵を大量に制作できるようになり、“今流行の美人”が民衆に広がりました。美人画の多くは、遊女を描いたものでしたが、やがて、芸者や水茶屋の女、評判の町娘などまで扱うようになりました。以後、美人画は役者絵とならぶ浮世絵の二大テーマになり、その時々江戸の美女の基準を示し続けました。なかでも歌川国貞の作品の若い娘は、生々しく凄艶な色気がにじみ出ているのが特徴です。

作 品 名	制 作 年	作 者	所 属 先
夕涼み	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
四季の花魁	制作年不明	歌川広重（世代不明）	個 人
里見八犬傳惣巻尾	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
松葉屋内粧ひ（花魁）	制作年不明	歌川国安（生没年不詳）	個 人
当世美人あわせ	制作年不明	溪斎英泉（寛政2年～嘉永元年・1790年～1848年）	個 人
当世美人あわせ	制作年不明	歌川国貞（天明6年～元治元年・1786年～1864年）	個 人
美人あわせ	制作年不明	溪斎英泉（寛政2年～嘉永元年・1790年～1848年）	個 人
きさらぎの図	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
若紫年中行事之内 菊月	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人
向島の花見	制作年不明	落合芳幾（天保4年～明治37年・1833年～1904年）	個 人
雛形若菜初模様	制作年不明	磯田湖龍斎（生没年不詳）	個 人
美人画	1818年～1825年頃	歌川国芳（寛政9年～文久元年・1797年～1861年）	個 人

武者 絵

甲冑姿の勇ましい武者の活躍を描いたものを武者絵といいます。この武者絵は、読本の流行や歌舞伎からの影響を底流として、幕末の浮世絵の主要な領域となりました。題材は、《平家物語》《源平盛衰記》《太平記》などの古典の戦記文学からとったものがほとんどで、その勇敢な姿を臨場感いっぱいに画面におさめました。この武者絵の先駆者は“武者絵は国芳に限れり”といわれた歌川国芳（1797年－1861年）です。国芳は、物語の主演（ヒーロー）を画面上で元気よく活躍させ、作品に動画のような勢いをもたせました。武者絵の流れは、国芳の門下の歌川芳虎らによって継承され、明治時代にも勇者の姿は描かれつづけました。

作 品 名	制 作 年	作 者	所 属 先
勇士高名之図	1818年－1825年頃	歌川国芳（寛政9年－文久元年・1797年－1861年）	個 人
三井寺合戦	1818年－1825年頃	歌川国芳（寛政9年－文久元年・1797年－1861年）	個 人
宇治川大合戦先陣ノ図	1818年－1860年頃	歌川国綱（生没年不詳）	個 人
源頼光公足柄山御狩ノ図	1808年－1818年頃	歌川国久（生没年不詳）	個 人
忠臣蔵討入ノ図	1830年－1859年頃	歌川芳虎（生没年不詳）	個 人
文治元年長門国八幡檀浦ノ合戦図	1830年－1859年頃	歌川芳虎（生没年不詳）	個 人
木曾義仲俱利伽羅谷合戦	1830年－1859年頃	歌川芳虎（生没年不詳）	個 人
武田信玄上杉謙信筑摩川合戦ノ図	1830年－1859年頃	歌川芳虎（生没年不詳）	個 人
頼朝公富士之御狩ノ図	制作年不明	一寿斎芳員（生没年不詳）	個 人
猿島偽館合戦図	制作年不明	一寿斎芳員（生没年不詳）	個 人
太平記大合戦	制作年不明	一寿斎芳員（生没年不詳）	個 人
義士誠忠復讐略傳	制作年不明	歌川豊国（世代不明）	個 人

横 浜 絵

江戸時代末期、安政6年（1859年）に開港した横浜を舞台に、異国風俗を紹介するため描いた錦絵を横浜絵といいます。いわば当時の“情報紙”。外国人やその居留地の様子のほか、横浜の案内図的なもの、また異国の想像図などが描かれ、もの珍しい外国のスタイルが民衆に伝えられました。

この横浜絵は、開港直後の万延元年（1860年）から慶応元年（1865年）と、明治の初め（1866年～1872年）の2期に分けられます。前期の画家には歌川芳虎、二代歌川広重ら、後期の画家には三代広重らがいます。これらの絵師は、歌川国芳の門下が最も多く、次いで三代豊国、初代広重の門人でした。

作 品 名	制 作 年	作 者	所 属 先
五國異人横濱上陸図	制作年不明	一川芳員（生没年不詳）	個 人
横濱異人館之図	制作年不明	一川芳員（生没年不詳）	個 人
港寄横濱一覽	制作年不明	一光斎芳盛（生没年不詳）	個 人

※展示の都合により、出品作品を変更することがあります。

お知らせ

展覧会期間中（開館時間）、高鍋町美術館視聴覚コーナーにおいて、浮世絵版画多色摺り体験（無料）ができます。できあがった作品は、絵はがきとしても使えます。展覧会の思い出にいかがですか？

※ご希望の方は、受付までお知らせください。

※希望者が多い場合は、お待ちいただくこともあります。